

普通温州の成熟は平年並み～やや早い傾向です。
完全着色した果実から減酸、食味を確認し、順次収穫しましょう！

1 令和5年11月の気象

令和5年11月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第3半旬を除いて平年より高く推移した。月平均気温は15.5℃で、平年より1.8℃高く、前年並みであった。

降水量は第3半旬で平年より多く、他は平年より少なかった。月合計は84mmで平年の57%、前年の64%であり、全体的に乾燥傾向であった。

日照時間は第2、3半旬を除いて平年より多かった。月合計は176時間で平年の120%、前年の108%であった。

表1 令和5年11月の気象(館山アメダス)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	18.4	15.7	16.9	1	24	0	38	25	28
2	18.9	15.0	14.0	18	23	3	17	25	33
3	12.2	14.2	15.9	5	24	14	22	24	26
4	14.6	13.2	12.9	57	26	7	30	24	32
5	15.4	12.3	14.4	2	26	67	35	24	29
6	13.5	11.6	17.5	2	23	39	33	24	15
平均/計	15.5	13.7	15.3	84	146	130	176	146	163

2 果実及び樹の生育

12月1日における調査園の果実生育状況を表2に示した。以下、3地区の平均を平年及び前年と比較すると、横径は「大津4号」が7.4cmで平年比99%、前年比95%であった。「青島温州」が7.4cmで平年比100%、前年比94%であった。両品種とも平年並みで、前年よりはやや小さい傾向であった。両品種とも千倉地区が平年及び前年並みで、三芳地区が平年及び前年より小さく、暖地園研が平年より大きく、前年並みの傾向であった。

縦径は「大津4号」が4.7cmで平年比94%、前年比87%であった。「青島温州」が4.7cmで、平年比94%、前年比90%であった。両品種共に平年及び前年より小さかった。両品種とも千倉地区及び暖地園研がほぼ平年及び前年並みで、三芳地区が平年及び前年より小さい傾向であった。

果形指数は「大津4号」、「青島温州」共に1.6で、両品種共に平年比及び前年比107%と扁球傾向であった。

表2 果実の生育（令和5年12月1日）

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	6.7	7.4	7.8	4.4	5.1	5.6	1.5	1.5	1.4
	千倉地区	7.1	7.5	7.6	4.5	4.9	5.0	1.6	1.5	1.5
	暖地園研	8.4	7.7	8.1	5.3	5.1	5.5	1.6	1.5	1.5
	平 均	7.4	7.5	7.8	4.7	5.0	5.4	1.6	1.5	1.5
青島温州	三芳地区	6.9	7.4	8.0	4.5	5.1	5.4	1.5	1.5	1.5
	千倉地区	7.3	7.3	7.4	4.6	4.9	4.7	1.6	1.5	1.6
	暖地園研	8.0	7.6	8.3	5.1	5.1	5.6	1.6	1.5	1.5
	平 均	7.4	7.4	7.9	4.7	5.0	5.2	1.6	1.5	1.5

注1) 各地点の各品種の値は40果の平均とした。ただし、鳥害、落果等により調査果実を変更した

2) 果形指数は、横径/縦径とした

3 普通温州の果実品質

12月1日調査時の果実品質を表3に示した。

着色程度は「大津4号」が3地区平均で8.7であった。三芳地区及び千倉地区はほぼ平年及び前年並みで、暖地園研は平年より高く、前年並みであった。「青島温州」が7.8であった。三芳地区は平年並みで前年よりやや低く、千倉地区は平年及び前年より低かった。暖地園研は平年より高く、前年より低かった。

糖度は「大津4号」が3地区平均で10.9であった。三芳地区及び千倉地区は平年及び前年より高く、暖地園研は平年並みで、前年よりやや低かった。「青島温州」では3地区平均で10.1であった。三芳地区は平年及び前年より高く、千倉地区は平年並みで、前年よりやや高かった。暖地園研は平年よりやや高く、前年並みであった。

酸度は「大津4号」が3地区平均で0.98であった。三芳地区は平年よりやや高く、前年より低かった。千倉地区は平年及び前年より高かった。暖地園研はほぼ平年及び前年並みであった。「青島温州」が3地区平均で0.84であった。三芳地区は平年より低く、前年よりやや低かった。千倉地区は平年並で前年よりやや高かった。暖地園研は平年より低く、前年並みであった。

甘味比は「大津4号」が3地区平均で11.6であった。三芳地区は平年並みで、前年より高く、千倉地区は平年よりやや低く、前年より低かった。暖地園研は平年より高く前年並であった。「青島温州」では3地区平均で12.5であった。三芳地区は平年及び前年より高く、千倉地区では平年及び前年並であった。暖地園研は平年より高く、前年並みであった。

果肉歩合は3地区平均で「大津4号」が76.6、「青島温州」が76.7であった。両品種とも平年及び前年より高かった。

表3 普通温州「大津4号」及び「青島温州」の果実品質（令和5年12月1日）

品 種	調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	8.3	8.1	8.3	10.9	10.1	9.9	0.94	0.88	1.07	12.0	11.8	9.8	75.6	75.6	75.1
	千倉地区	8.8	8.7	9.1	11.1	10.3	10.4	1.13	0.96	0.91	10.0	10.9	11.8	75.9	75.7	75.9
	暖地園研	9.1	8.2	9.5	10.6	10.2	11.2	0.86	0.91	0.90	12.7	11.5	13.0	78.2	75.6	77.0
	平均	8.7	8.4	8.9	10.9	10.2	10.5	0.98	0.92	0.96	11.6	11.4	11.5	76.6	75.7	76.0
青島温州	三芳地区	7.7	7.6	8.2	10.4	9.3	9.5	0.84	0.94	0.89	12.8	10.1	11.0	78.0	74.5	76.0
	千倉地区	6.9	8.2	8.3	9.6	9.7	8.9	0.96	0.95	0.89	10.4	10.4	10.4	75.6	74.1	73.6
	暖地園研	8.8	7.8	9.4	10.2	9.6	10.2	0.73	0.90	0.74	14.3	11.0	14.4	76.5	75.6	75.4
	平均	7.8	7.9	8.7	10.1	9.5	9.6	0.84	0.93	0.84	12.5	10.5	11.9	76.7	74.7	75.0

注) 平年値は平成5年～令和4年の30年間の平均値

甘味比＝糖度/酸度

果肉歩合＝(果肉重/1果重)×100

4 12月～3月の栽培管理

(1) 普通温州の収穫・予措

普通温州では果実の着色が8分程度の場合、貯蔵中にほぼ完全着色するが、濃厚な橙色とはならず、初期の減量が完全着色果に比べ大きい。また、完全着色果に比べ糖含量が低いので、高品質の果実として出荷できない。そのため、まずは全体の約半数の果実（完全着色果のみ）を収穫する。さらにそこから10日後に、8分着色以上のものを収穫する。

収穫時についた傷や虫害による傷は、腐敗の原因となることが多いので、必ず手袋をはめ、先の丸い採果鋏を用いて収穫し、果実表面を確認する。採取容器は肩から掛ける袋か、かごを用いる。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので、コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に10～15日置く予措を行うと、果実の重量が3%程度減少して果皮の活性が抑制され、貯蔵中における果汁成分の消耗が少なくなる効果がある。また、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(2) 病害虫の防除

青かび病等の予防には、収穫前にトップジンMゾル（2000倍液）を散布する。

ミカンハダニ、カイガラムシの防除は2月下旬～3月上旬にマシン油乳剤（97%）60倍液を散布する。厳寒期を避け、晴天が続く暖かい日に実施する。また、樹勢の弱い樹や台風等の被害で著しく落葉した樹では、散布を見合わせる。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

(3) 防寒対策

気象情報に注意し、適切な防寒・低温対策をとる。樹体を強い寒風から守るため、防風垣や防風ネットを設置する。斜面下部など冷気のたまりやすい場所の防風垣は下枝を切り冷気を逃がす。

また、果実は寒害で食味が低下するため、収穫適期を迎えた果実は寒さを受ける前に収穫する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の発行元 》千葉県農林水産部生産振興課

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>